

第2回 特別研修会

将来のリスクや変化を視野に入れた インプラント治療計画～メンテナンス

院内で共有したい知識とワークフロー どこを診る?何をやる?インプラントメンテナンスの実際

日時：令和元年9月1日(日)

場所：ステーションコンファレンス東京

講師：林美穂先生、歯科衛生士 藤本和泉様



青柳 恵子 (長野県)

2019年9月1日ステーションコンファレンス東京会場にて【令和元年度第2回特別研修会】が開催されました。

福岡市ご開業の林美穂先生、ご勤務の藤本和泉歯科衛生士のご講演ということで、快晴の中73名(歯科医師21名、歯科衛生士52名)の参加者で会場はほぼ満席になりました。公益社団法人日本口腔インプラント学会の専門歯衛生士委員会委員長で、当会の会長である田中譲治先生からご挨拶がありました。埋入されたインプラントについて歯科衛生士に教えてくれるセミナーは数少ないため、1日学べる貴重な機会に参加者からの熱気が伝わってきました。



1st.Office 1998～2006年

開業時から藤本和泉歯科衛生士と共に創意工夫をしながら医院が発展したお話

2st.Office 2007年～

スタッフの為の院内託児所を開設／CBCTやマイクログの設備投資との闘い 歯科医師は情熱・優しさ・判断力・決断力のBalanceが大切



人との出会いで転換期を見逃さないように注意して、こだわりをもって治療するようアドバイスをいただきました。

林美穂先生は歯をできるだけ残したいので、ご自身の臨床からエビデンスを見い出すことに専念されています。そのために写真とデジタルの規格撮影を行い、経過を追いながら見えてくるものを臨床に活かしておられます。

インプラントは適正に使われれば良い治療法であるが、周囲組織の防御機構が乏しい為、審美性を重視しない臼歯部では高床式の縁上マーゲンを選択した方が、予後は良く安心であると何度もアドバイスされました。

骨造成では骨補填材の選択は慎重に行い、必ず吸収速度の違うものをブレンドして使用することです。また、成人においても継続的な頭蓋顔面発育の変化が起こっているという Daftary F 先生の紹介をされて、メンテナンス時の咬合チェックの必要性和、コンタクトポイント離開への介入を見逃さないよう話されました。そしてマイルドエアーをかけて出血するケースでは、上部構造のエマージェンスプロファイルにも注意を払い、TLでは関係がないが、BLでは角度が30°以上だとインプラント周囲炎に罹患するリスクが2倍になるので、適正なカウンターへの変更を推奨されました。

経年的変化の中でレジストレーションストリップスが抜けたらいち早く対応をするため、メンテナンスでは必ず歯科医師が咬合チェックをして、天然歯との調和を確認することが重要です。

2010年に65歳以上が21%を超えて、日本は超高齢社会になっています。加齢と共に心身の活力が低下するフレイルについて、歯科が咬めない方へ介入し健康者へ戻すことも可能であるとお話しされ、86歳のお父様が転倒し前歯を強打した際に、あまり大事にしすぎると口腔機能低下症が進んでしまい負のスパイラルに陥ってしまうので、怖がらずに食事するように促すなど、周りからのアドバイスも大切であると教えてくださいました。

午後からは藤本和泉歯科衛生士からインプラントメンテナンスについてのご講演がありました。見落としや乱暴な手技がないように、良好な状態を未永く維持していくための早期発見・早期治療についてです。チェックリストを作成し医院でのシス

テム作りをされています。患者さんには口腔内の動画を多く用いてコミュニケーションをとり、一緒に原因の追究をされています。例えば、インプラントが埋入されている方が誤って顆粒入りの歯磨剤が使われていたら「今、この様なことが起きています」と歯肉を動画に撮って患者さんに見てもらいます。

口腔衛生状態の確認では、インプラントだけでなく、天然歯のプラーク付着もしっかりと確認をして、天然歯をいかに残すかにこだわっていきたい、そして常に目の前の患者さんが今よりどうしたら改善するかを考えて、先生とよくディスカッションしてから提示されているそうです。また、歯科衛生士は必ずレントゲン写真をよくみて、インプラント埋入ポジションや補綴・アバットメントの形態を確認してからメンテナンスに入るようアドバイスされました。インプラント周囲組織の性状を考慮し、歯ブラシの選択や当てる角度に注意して、的確な清掃器具の選択をするよう各メーカーの商品名を挙げられていました。

患者さんの変化を見逃さないためには、長期にわたってメンテナンスに来院し続けていただく必要があります。歯科衛生士が経年的変化へ対応していくためにも、お薬手帳を必ず確認し、歯科医師への報告・連絡・相談の徹底、個々の生態に応じたメンテナンスメニューをチームで作成して、低侵襲で痛みを与えない配慮が必要になります。

長時間にわたり貴重なご講演をしていただき、多くの症例から患者さん1人1人を大切に、チームで医療をされていることがよくわかりました。

その後の質疑応答もとても活発で、歯科衛生士からはメンテナンスに通っていただくポイントについての質問が多数集まり、患者さんを飽きさせないように配慮して単調な指導を繰り返さない、常に現在の患者さんに合ったものを提案するように回答をいただきました。

今回、この様な貴重な学びの機会を与えていただいた運営委員の諸先生方に、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

